



浜松市デジタル・スマートシティ 官民連携プラットフォーム 第4回運営委員会



令和5年3月20日



1 開会

2 これまでの進捗と実績

3 意見交換

- (1) プラットフォームのこれまでの活動の振り返りと今後に向けて
- (2) 官民でのWell-Being指標の活用について
- (3) 各分野のDXの更なる推進に向けて

4 閉会

あいさつ



委員長（浜松市副市長） 山名 裕

1. 運営委員の皆様

- 基本的に「ビデオはON」、「音声はOFF（ミュート）」

ご発言時

- オンラインでの参加者
「音声をミュート解除」し、最初にお名前をお伝えいただいたのちにご発言ください。
- 現地参加者
テーブルのマイクにてご発言ください。

2. 視聴参加の皆様

- 基本的に「ビデオ、音声はOFF（変更できません）」
- ご意見はメニューのチャット機能（送り先「全員」）を利用ください。

2 これまでの進捗と実績

(1) 令和2年度からの推進基盤整備の進捗

令和2年度からの推進基盤整備の進捗

策定	内容
2021年（令和3年）3月 デジタル・スマートシティ構想	- デジタルを活用したまちづくり推進条例第6条第1項に規定する「基本指針」として位置づけ。 - 市民QoL（生活の質）の向上と都市の最適化を目指し、3つの視点と5つの原則に基づき、官民で取組を推進していくことを規定。
2022年（令和4年）7月 デジタルを活用した まちづくり推進条例	- 市民生活の質の向上や都市の最適化を図り、安全・安心で幸せに暮らし続けることができる持続可能な都市を築くことを目的に制定。 - 条例に基本原則や市の責務、市民等の役割、基本指針等の策定、推進体制の整備等を規定。
2023年（令和5年）1月 浜松市DX推進計画	- デジタルを活用したまちづくり推進条例第6条第2項に規定する「基本方針（デジタル・スマートシティ構想）に基づく計画」として位置づけ。 「人に寄り添ったデジタル活用」を目指し、デジタル活用による市民サービスの向上や、自治体の生産性向上に取り組む。

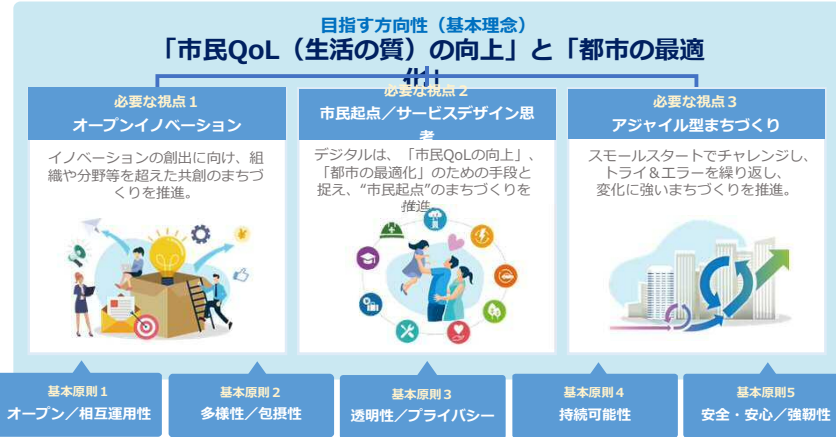
浜松市デジタル・スマートシティ構想

策定：2021(令和3)年3月
浜松市デジタル・スマートシティ推進事業本部

将来像

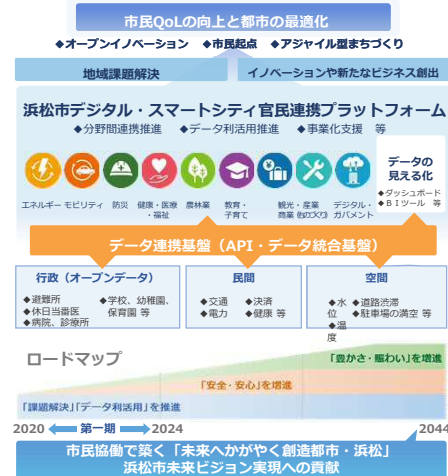
～ デジタルで“繋がる未来”を共創 ～

人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ禍の状況においてデジタルの力を最大限に活用し、「市民QoL(生活の質)の向上」と「都市の最適化」を目指し、デジタルで“繋がる未来”を官民で共創します。



推進体制とエコシステム(好循環)

官民共創によるまちづくりを進め、「地域課題の解決」と「イノベーションや新たなビジネスを創出」するエコシステム(好循環)を形成します。



【推進体制】

- 「浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム」(PF)を中核に官民共創でデジタル・スマートシティを推進。
- PFは各分野の推進組織と連携し、分野間連携とデータ活用を推進。
- PFは民間主導のプロジェクトの創出を支援し、市民目線で地域のプラットフォーム及びコーディネーターの機能を担う。

【目指すエコシステム(好循環)】

- ベンチャー企業などから課題解決のアイデアやソリューションの提案を受け、実証実験を実施。
- 実証実験は「国土縮図型都市・浜松」の多様なフィールドを活用。
- 実行・検証・改善を繰り返し、社会実装へとつなげる。

市民は、実証実験への参加やサービスを選択する形で「市民QoL向上」に貢献。

企業は、地域課題の解決に貢献することでイノベーションや新たなビジネス創出の機会とする。

デジタルで“繋がる未来”の概観

デジタルの力を最大限に活用し、「課題解決型のアプローチ」と「未来に夢と希望を持てるチャレンジ」を組み合わせることで、ヒト・モノ・コトを繋ぎ、“繋がる未来”を創造します。



デジタルで“繋がる未来”のキーワード

- 人と人が繋がる(リモートでの見守りや面会、相談、帰省等)
- 社会と繋がる(高齢者や障がい者、外国人、女性等の社会参加をサポート)
- サービスが繋がる(遠隔教育、遠隔医療、遠隔鑑賞等)
- 都市部と地方が繋がる(リモートワークや多拠点居住の促進)

浜松市デジタル・スマートシティ構想

策定：2021(令和3)年3月
浜松市デジタル・スマートシティ推進事業本部

Digital Smart City
HAMAMATSU

第一期（2020年度～2024年度）における重点取組分野

2020年度から2024年度の5年間で第一期と位置づけ、①本市の強みを活かした取組、②ウィズコロナ、ポストコロナのニューノーマルや安全・安心への対応、③課題解決型アプローチによる持続可能で包摂的な社会の構築に向けた取組、④推進基盤の構築や強化に重点的に取り組みます。

① 浜松の強みを 唯一無二のものに

ウェルネス

- 「予防・健康都市浜松」実現に向けた官民連携
- 健康情報を活用した生活習慣病等の予防・改善
- 介護ロボット等の活用による介護従事者の負担軽減
- AI等を活用した健診（検診）の受診率向上

音楽文化・ エンターテイメント

- デジタル技術を活用した文化事業の実施
- ニューノーマル時代のエンターテインメントの新たな楽しみ方の創出と普及
- インターネットを活用した音楽文化等の発信とリモートによる国際交流の推進

産業（ものづくり・農林業）

- 国土縮図型都市・浜松のフィールドを活用した新たなサービスやソリューションの創出
- サテライトオフィス等を活用したベンチャー企業等の誘致
- 先端技術を活用するスマート農林業の推進
- 中小企業の生産性向上に向けたIT（情報技術）・IoT等の活用支援

観光・商業

- デジタル・マーケティングの活用による情報発信
- 新しい生活様式に即した観光の活性化と賑わいの創出
- 関係人口の拡大や多拠点居住の促進
- デジタル活用による移住・定住・交流の促進
- キャッシュレスの推進
- デジタルを活用したインセンティブ（報奨、奨励）付与による誘客や消費活性化の研究

② 浜松らしい ニューノーマル社会の実現を目指して

リモートワーク・ 多拠点居住

- 関係人口の拡大や多拠点居住の促進
- デジタル活用による移住・定住・交流の促進
- リモートワークやテレワークの推進
- テレワークパーク構想の推進
- 副業・兼業人材の活用促進

教育・ 子育て

- GIGAスクール構想の実現に向けた教育環境整備
- オフライン授業とオンライン授業のハイブリッド（組み合わせ）による持続可能な教育の推進
- ICT（情報通信技術）等を活用した子どもや子育て世代への効果的な情報提供や相談体制の構築

見守り・ 災害対応

- IoT等を活用した高齢者や子どもの見守り推進
- 災害予測や災害状況の効果的な把握
- 災害関連情報の効果的な提供
- 避難所の効果的な3密対策

デジタル・ ガバメント （電子行政）

- 書面規制・押印・対面規制等の見直し
- 行政手続きのオンライン化やキャッシュレスの推進
- マイナンバーカードの取得促進とマイナンバーカードを活用した行政サービスの拡充
- 多様な伝達手段による情報の提供
- AIやICT等の活用による生産性の向上
- DX推進に向けた職員の人材育成

第一期 デジタル・ スマートシティ 浜松 の基礎固め

③ デジタルの力で持続的・包摂的社会を構築

モビリティ （移動・物流）

- モビリティとサービスの連携による持続可能なまちづくりの推進
- モビリティサービス推進コンソーシアムを中核とした官民連携によるプロジェクトの創出
- 医療MaaSの推進
- フードデリバリープラットフォームの推進
- テレワークパーク構想の推進

インフラ （社会生活基盤）

- ドローンやセンサー等の活用によるインフラの老朽化対策
- 点群データなどインフラ情報のデジタル化
- 都市のデジタル化推進におけるインフラの利活用や高度化の検討

社会参加促進

- AIやICT等の活用による障壁の除去
- バリアフリー情報等のオープンデータ化の促進
- 情報へのアクセシビリティの向上
- ICT技術やSNS等を活用した市民参加の促進
- シニア向けスマートフォン講座等の充実

エネルギー・循環型社会

- 「浜松市域"RE100"」の実現に向けた推進
- スマートコミュニティ、スマートタウンのモデルの構築
- スマートプロジェクトの実現
- 新清掃工場及び新破砕処理センターをモデルとしたサーキュラーエコノミーの推進

④ 共創の基盤を構築しより強固なものに

官民共創による 推進体制の強化

- 浜松市フェロー等外部人材の活用
- 官民共創によるプロジェクト創出に向けたアイデアソン等の開催
- 次代を担う若者世代の巻き込み
- 官民連携プラットフォームを活用した分野間の連携促進
- シビックテックとの連携や共創

データ連携基盤の整備や オープンデータの拡充

- データ流通のハブ（中継地）となるデータ連携基盤の整備と利活用
- データ連携基盤の活用事例の創出（「ORI-Project」の推進）
- オープンデータプラットフォーム(ODPF)の整備と利活用
- 点群データのオープンデータ化と利活用促進

人材育成

- 次代を担う若者の育成
- データ活用に関するセミナーやハッカソン等の開催
- シニア向けスマートフォン講座等の充実
- 人材育成におけるリモートやオンラインセミナー等の活用
- 人材育成における大学やCode for Japan等との連携

通信基盤等の 整備や利活用促進

- 中山間地域等への光ファイバ網の整備支援
- 5Gアンテナ基地局の設置や利活用の促進
- 各種通信（高速・低遅延）活用の事例の共有と横展開
- 活用事例の創出やニーズ喚起による各種通信インフラ整備の働きかけ

浜松市デジタルを活用したまちづくり推進条例（抜粋）



（目的）

第1条 この条例は、デジタルを活用したまちづくりが市民の利便性の向上に資するとともに人口減少及び少子高齢化をはじめとする社会課題に対応する上で極めて重要であるとの認識の下、デジタル社会形成基本法（令和3年法律第35号。以下「法」という。）の趣旨に基づき、デジタルを活用したまちづくりの推進に関する基本原則及び基本的な事項を定め、市の責務及び市民等の役割を明らかにすることによって、市民生活の質の向上及び都市の最適化（効果的かつ効率的な都市の計画、整備並びに管理及び運営をいう。）を図り、もって全ての市民が安全及び安心で幸せに暮らし続けることができる持続可能な都市を築くことを目的とする。

（市の責務）

第4条 市は、前条に定める基本原則にのっとり、市民等と連携し、及び協力しながら、デジタルを活用したまちづくりに関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（市民等の役割）

第5条 市民等は、デジタルを活用したまちづくりの推進について、市と連携し、及び協力するよう努めるものとする。

（基本指針等の策定等）

第6条 市長は、第4条に規定する施策を総合的かつ計画的に実施するための基本指針を策定しなければならない。

2 市長は、前項の基本指針に基づく計画を策定しなければならない。

3 市長は、第1項の基本指針及び前項の計画を策定し、又は変更したときは、速やかに、これを公表しなければならない。

基本指針：浜松市デジタル・スマートシティ構想

基本方針に基づく計画：浜松市DX推進計画

（推進体制）

第7条 市長は、デジタルを活用したまちづくりに関する施策について総合調整を行うとともに、これを実効性のあるものとするための推進体制を整備しなければならない。

推進体制 { **・ 浜松市デジタル・スマートシティ推進本部**
・ 浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム

■ はじめに

策定趣旨

- ・国の各種法律（官民データ活用推進基本法やデジタル社会形成基本法等）の制定や総務省「自治体DX推進計画」の策定、本市の「デジタルを活用したまちづくり推進条例」の制定等を踏まえ策定。
- ・デジタル・ガバメント（電子行政）や官民データの活用を本計画に基づき効果的に推進するとともに取組を加速する。

背景

＜社会情勢＞

- ・人口減少、少子高齢化
- ・成熟社会、価値の多様化
- ・With/Afterコロナのニューノーマル時代
- ・国民生活におけるデジタル化の進展

＜国の動向＞

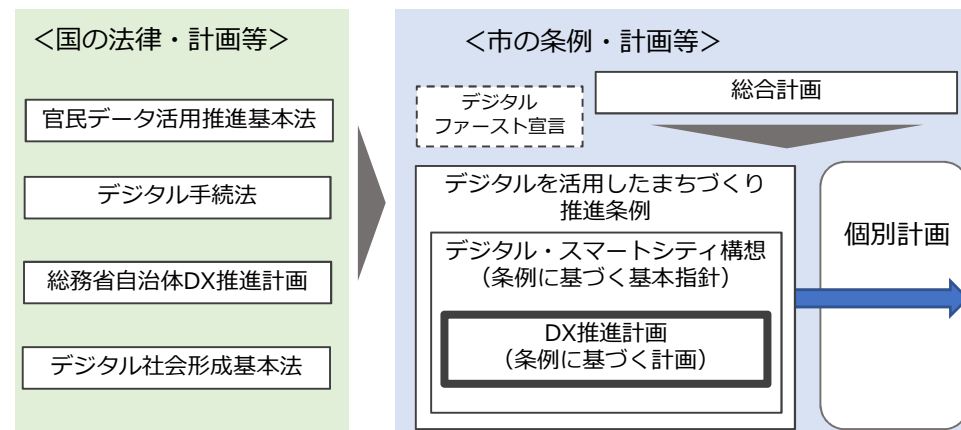
- ・2016年12月 官民データ活用推進基本法の施行
- ・2019年12月 デジタル手続法の施行
- ・2020年12月 総務省「自治体DX推進計画」策定
- ・2021年9月 デジタル社会形成基本法の施行及びデジタル庁の設立

＜本市の取組＞

- ・2019年10月 デジタルファースト宣言
- ・2020年4月 体制整備（庁内・庁外）
- ・2021年3月 デジタル・スマートシティ構想の策定
- ・2022年7月 デジタルを活用したまちづくり推進条例の施行

位置付け

浜松市デジタルを活用したまちづくり推進条例第6条第2項に基づく計画及び官民データ活用推進基本法第9条第3項に規定する市町村官民データ活用推進計画として位置付けます。また、浜松市情報化基本方針は、本計画に統合します。



計画期間

2023年1月～2025年3月

※計画期間内において、情報通信技術（ICT）や政策の進展により適宜計画内容を見直します。

■ 推進体制等

推進体制

＜庁内体制＞

デジタル・スマートシティ推進本部

（本部長：市長、事務局：デジタル・スマートシティ推進課）

＜外部人材の活用＞

効果的にDXを推進するため、浜松市フェローなど積極的に外部人材を活用します。

人材育成

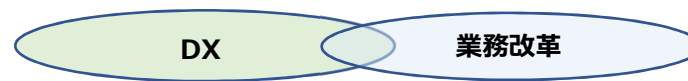
DX人材に求められる知識、スキル、意識等を身につけるため、体系的に人材育成を行います。

データを活用した政策立案や評価の推進

行政の効率化、高度化を図るため、客観的証拠となる統計等のデータを整備し、証拠に基づく政策立案（EBPM）や評価へのデータ活用を進めます。

DXと業務改革を一体的に推進

単にデジタルツールを活用するのではなく、市民目線で行政サービスを設計するとともに、業務プロセスの見直しをはじめ業務改革とDXを一体的に推進します。



情報セキュリティの確保等

＜情報セキュリティの確保＞

「浜松市情報セキュリティポリシー」に基づき情報セキュリティの維持・向上に努めます。

＜ICTガバナンス（管理）の確立＞

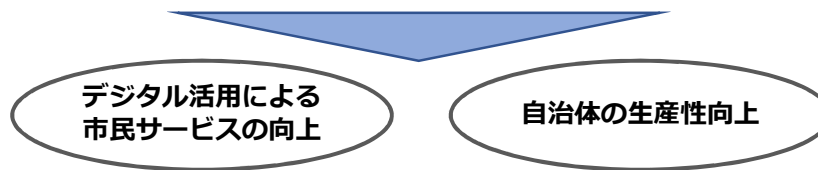
「情報システムの企画・調達・運用に関する適正化ガイドライン」（2022年4月策定）に沿って情報システム等を調達し、システムの品質向上や調達プロセスの標準化・透明性の確保、情報化に要する経費の抑制を図ります。

■ 目指す方向性と基本的考え方

社会情勢 「人口減少・少子高齢化」「変化のスピードが速い」「成熟社会・価値の多様化」「デジタル化の急速な進展」

目指す方向性

人に寄り添ったデジタル活用
～安全・安心、便利で快適な市民サービスの実現～



人に寄り添ったデジタル活用のイメージ



基本的考え方

- ① 人が中心、デジタルは手段
- ② 個人情報の保護とプライバシーへの配慮
- ③ 変化を先取りし、新たな価値を創出する（組織・制度・職員意識の変革）
- ④ 小さく始めて、改善を繰り返す
- ⑤ システム所有からサービス利用へ

■ 取組事項の体系

【デジタル活用による市民サービスの向上】

- ① 行政手続きのオンライン化の推進
- ② 書かない窓口の推進
- ③ キャッシュレス決済の推進
- ④ 電子契約・電子請求の推進
- ⑤ 情報発信や相談等のスマート化
- ⑥ デジタルを活用したコミュニケーションのUD化
- ⑦ デジタル活用のサポート
- ⑧ オープンデータ化の推進
- ⑨ マイナンバーカードの普及及び利活用
- ⑩ セキュリティ及び個人情報の適切な取り扱いの確保

【自治体の生産性向上】

- ① LGX推進に向けた組織・職員意識の変革
- ② LGX推進に向けたインフラ環境の整備
- ③ テレワーク等柔軟な執務環境の整備
- ④ ペーパーレス化の推進
- ⑤ 情報システムの標準化・共通化
- ⑥ デジタル活用による業務改革の推進

(2) 令和2年度からの活動実績

令和2年度からの活動実績

	令和2年度 末時点	令和3年度 末時点	令和4年度 3/14時点
会員数（団体）	122	173	199※
ソリューションピッチ（回）	—	2	2
ウェビナー（回）	—	9	4
MONTH冠事業（件）	21	23	29
講師派遣（件）	—	—	4

※一般会員：187
パートナー会員：12

①成果

- ・推進の基盤となる条例、構想、DX推進計画を制定・策定
- ・PF 会員の拡大 199 団体（R4.3.3 時点）多様な主体が参画（IT、金融、建築、学校等）
- ・運営委員会やウェビナー等により各分野の取組の現状と課題を共有
- ・データ連携基盤の活用における実証から実装への仕組みづくり

②課題

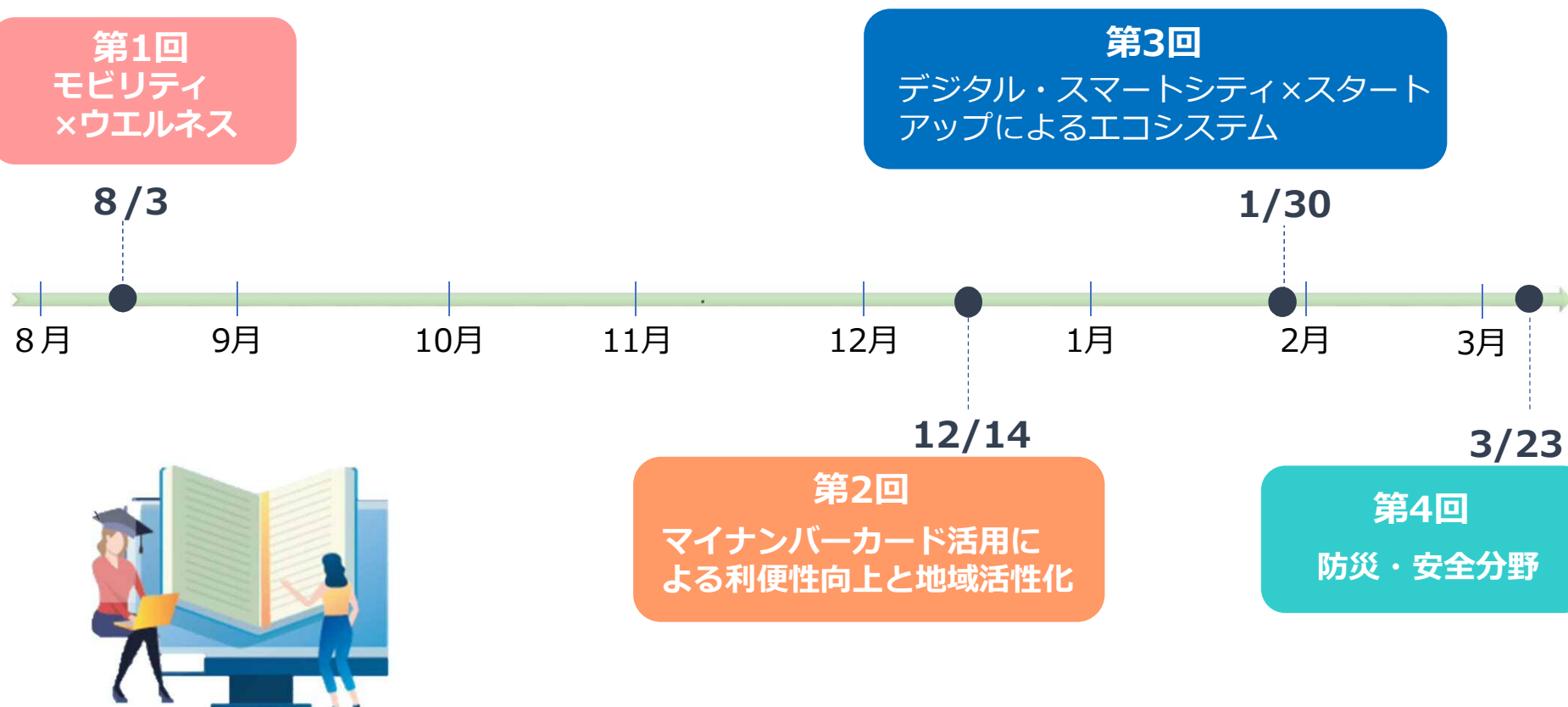
- ・PF と各分野の推進母体の更なる連携
- ・各分野におけるデータ利活用の一層の推進
- ・条例や構想等が整備された中で、各取組の実装に向けた強化
- ・地域課題解決や地域の活性化等にどのようなインパクトを与えているかの評価（Well-Being 指標の活用 等）

(3) 令和4年度の主な事業報告

①“デジタル・スマートシティ浜松” ウェビナーシリーズ

分野間連携の取組等を紹介する「ウェビナー」を、年4回開催。

＜スケジュールと紹介分野＞



主催：浜松市、官民連携PF 対象：どなたでも視聴可能（無料）

第3回 ～デジタル・スマートシティ×スタートアップによるエコシステム～

令和5年1月30日（月）10：00-12：00

参加申込者：46名

趣旨説明

浜松市デジタル・スマートシティ推進課

講演

「デジタル・スマートシティ政策とスタートアップ政策の連携により目指す、エコシステムの姿」
浜松市フェロー、
浜松市ベンチャー支援アドバイザー、
(株)日本総合研究所プリンシパル 東 博暢 氏

取組紹介

- ①「浜松市のスタートアップ政策」
浜松市産業部 江馬正信
- ②「FUSEの取組」
浜松いわた信用金庫 渡邊迅人 氏
- ③「静岡大学の取組」
国立大学法人静岡大学 川田善正 氏
- ④「浜松医科大学の取組」
国立大学法人浜松医科大学 山本清二 氏

パネルディスカッション

▼登壇者
東博暢 氏、江馬正信、渡邊迅人氏、川田善正氏、
山本清二氏、吹野豪氏：リンクウィズ（株）、
瀧本 陽一
▼ファシリテーター
(株) HEART CATCH 西村真里子 氏



浜松デジタル・スマートシティMONTHのHPにて、
当日の動画と資料を公開しています。

<https://www.month.hdsc.city/webinar/2022-3>

第4回 ～防災・安全分野～

令和5年3月23日（木）13：30-15：00

参加申込者：3月22日正午まで受付

趣旨説明

浜松市デジタル・スマートシティ推進課

取組紹介

- ①「点群データを活用した災害対応」
静岡県交通基盤部未来まちづくり室
課長代理 杉本直也氏
- ②「ドローンを活用した災害対応」
(株)トラジェクトリー
代表取締役社長 小関賢次氏
- ③「リスク関連情報収集サービスを利用した
地域防災力向上」
(株)JX通信社
公共戦略チーム担当課長 広兼達也氏
- ④「3Dを用いた災害シミュレーションと
企業間連携による災害時サポート」
(株)フジヤマ 営業部 地理情報営業推進室
DX担当 室長 山浦篤氏

パネル ディスカッ ション

- ▼登壇者
杉本直也氏、小関賢次氏、山浦篤氏、広兼達也氏、
危機管理監 小松靖弘、土木部 部長 伏木章尋
- ▼ファシリテーター
(株) HEART CATCH 西村真里子 氏



浜松デジタル・スマートシティMONTHのHPにて、
当日の動画と資料を公開しています。

<https://www.month.hdsc.city/webinar/2022-4>

② Hamamatsu ORI-Project

- ・ 7か月間（令和4年8月～令和5年2月）の事業検証支援期間が終了しました。
- ・ 令和5年3月24日（金）14時から、Hamamatsu ORI-Projectと浜松市データ連携基盤活用サービス実装支援補助金の合同成果発表会を開催します。

	2022										2023		
小項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
全体 スケジュール	募集		事業構想支援			事業検証支援					成果 報告		
個別日程			▼リインターン 6月3日（金）	▼ワークショップ 7月4日(月)午後 ▼第1回データ連携基盤 活用勉強会 7月14日(木) ▼事業 プレゼンテーション 7月26日（火） SLACKによる技術 相談、サービス構想支援等対応					▼事業検証 中間報告会 12月12日（月） ※データ連携 基盤補助金と 合同開催			▼成果発表会 3月24日（金） ※データ 連携基盤 補助金と 合同開催	
			・個別メンタリング （概ね月2回、開催頻度や日程 調整はSLACKで個別に実施）										

- ・ 下記団体に対し、令和4年8月～令和5年2月に掛けて事業検証支援を実施しました。

- 国際航業株式会社（本社所在地：東京都新宿区）
サービス名「道路パトロール業務の効率化 ～道路パトロールシステム～」
- 株式会社JX通信社（本社所在地：東京都千代田区）
サービス名「リスク関連情報収集サービス「FASTALERT」と「NewsDigest」を利用した地域防災力向上・地域活性化に向けた取り組み」
- ユニソック合同会社（本社所在地：静岡県駿東郡長泉町）
サービス名「『 AVS 』 Active Volunteer System ～ボランティア体験を通して、個人の主体性を高める法人向けサービス～」
- 下記4社による連携体
 - ・ 株式会社GreatValue（連携体の代表、本社所在地：東京都港区）
 - ・ イーデザイン損害保険株式会社（本社所在地：東京都新宿区）
 - ・ 株式会社Helte（本社所在地：千葉県柏市）
 - ・ 株式会社トラスト・アーキテクチャ（本社所在地：東京都港区）**サービス名「浜松市の生活を情報で支援する浜松ヒーローズ」**

※株式会社アール・スリーは、自社の都合により、年度途中で事業検証支援を辞退

③データ連携基盤活用サービス 実装支援補助金

令和4年度の補助事業採択先

- 下記の4者に対し、補助金の交付決定を行い、実装に向けた取組を支援しています。
- 先述のとおり、令和5年3月24日（金）14時から、Hamamatsu ORI-Projectと浜松市データ連携基盤活用サービス実装支援補助金の合同成果発表会を開催します。

■ 株式会社オサシ・テクノス（本社所在地：高知県高知市）

補助事業名

「冠水エリア予測システム」

■ 株式会社フジヤマ（本社所在地：静岡県浜松市中区）

補助事業名

「浜松市データ連携基盤を活用した斜面表層崩壊モニタリングサービス構築業務」

■ 八千代エンジニアリング株式会社（本社所在地：東京都台東区）

補助事業名

「河川を流下する人工系ごみ（プラ含む）輸送量データに基づくごみ削減対策」

■ 一般社団法人One Smile Foundation（本社所在地：神奈川県横浜市保土ヶ谷区）

補助事業名

「高齢者施設におけるSmiral－スマイラルーの実装事業」

令和4年度 ORI-Pro / データ連携基盤活用サービス 実装支援補助金 合同成果発表会



- 下記のとおり、令和4年度のORI-Project と データ連携基盤活用サービス実装支援 補助金の合同成果発表会をオンラインで開催します。
- 成果発表会終了後、アーカイブ動画をORI-Projectの公式WEBサイトにて公開予定です。

■日時

令和5年3月24日（金）
午後2時～午後4時

■開催方法

Zoomウェビナーによるオンライン開催

■次第

14:00-14:05 開会
14:05-14:15 令和4年度 事業概要報告
14:15-15:45 取組団体8者（ORI-Project 事業検証支援先 4者、データ連携基盤活用サービス実装支援補助金採択先 4者）からの成果発表
15:45-15:58 講評
15:58-16:00 閉会

■参加対象

無料で、どなたでもご参加いただけます。（定員400名）

■申込方法

参加登録フォーム（<https://logoform.jp/form/Savd/229376>）
から申込（令和5年3月23日（木） 正午 〆切）



④デジタル田園都市国家構想交付金 デジタル実装タイプ[○]（TYPE2）

（令和4年度第2次補正予算事業）

事業概要（1/2）【支え合いによる安全・安心と地域幸福度（Well-Being）の向上】

実施地域	静岡県浜松市	事業費	45,302千円
実施主体	浜松市、浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム会員 等	人口	795,000人
事業概要	浜松市データ連携基盤を土台とし、データやデジタル技術を活用したサービスの官民共創と地域実装に継続して取り組むとともに、市民や企業、地域団体など、多様な主体が支え合い、地域幸福度（Well-Being）を向上させることができるまちづくりを推進する。特に、AIによる自動収集や市民の投稿から収集したデータを活用した市民の安全・安心の確保や、共助型交通などのデジタル活用による地域共助の仕組の強化に注力する。		

取組内容

市民やスタートアップをはじめとする企業、地域団体など多様な主体を巻き込み、市民の安全・安心、ひいては、地域全体のWell-Beingの向上に向けて、次の取組を一体的に推進する。

①データ活用による市民の安全・安心の確保

- ◎ AIによるSNS等からの災害情報等のリアルタイム収集・分析
- ◎ AIによる道路損傷の迅速・効率的な検出
- ◎ 施設損傷・不法投棄等LINEスマホ通報システムの運用

②デジタル活用による地域共助の促進

- ◎ 浜松版MaaS（共助型交通）の導入
- ◎ LINEを活用した地域ボランティア活性化サービスの実装
※浜松市データ連携基盤活用サービス実装支援補助金により民間サービスを支援

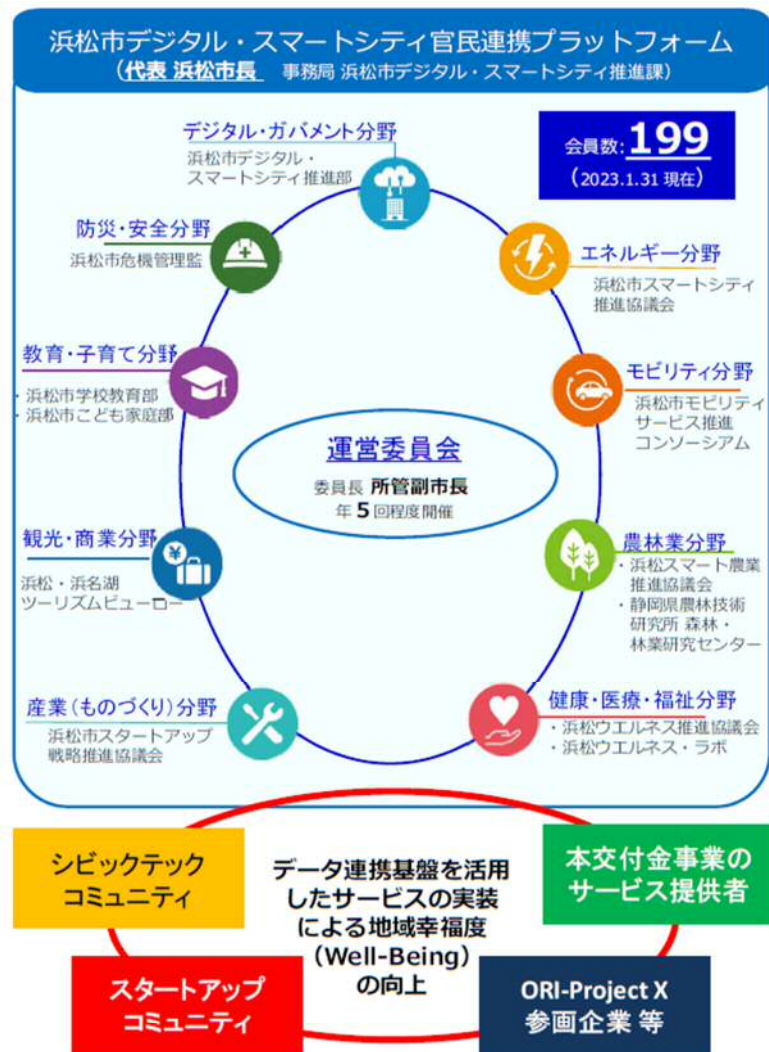
③データ連携基盤を活用したサービスの官民共創の推進

- ◎ 浜松市データ連携基盤の機能追加
- ◎ 浜松市データ連携基盤の利活用の促進（本交付金充当対象外）
 - 浜松市データ連携基盤を活用したハッカソンなどの開催
 - データを連携・活用して地域課題にアプローチするソリューションの検証

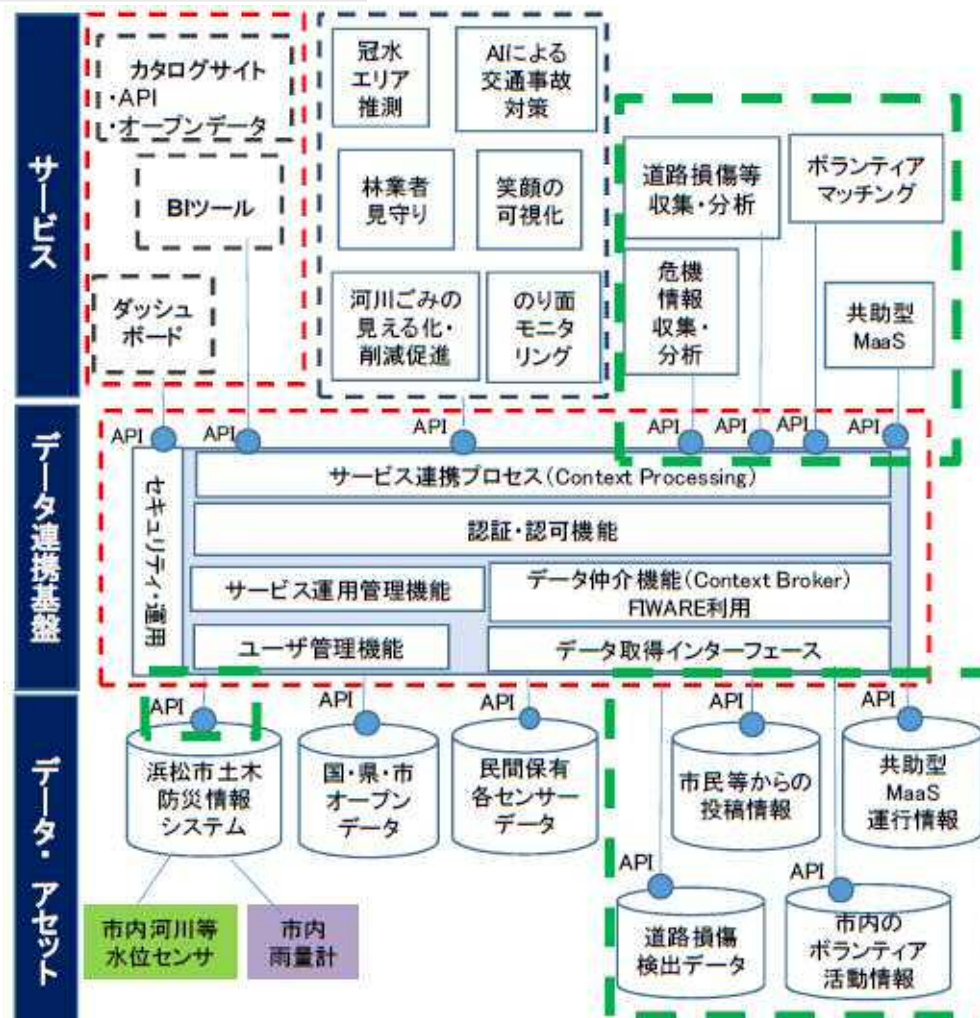


事業概要（2/2）【支え合いによる安全・安心と地域幸福度（Well-Being）の向上】

実施体制図



システム構成図



※緑点線太枠部分が、本交付金の対象部分

※サービスレイヤーの青点線枠部分は、R3補正デジ田TYPE2を活用

※データ連携基盤(赤点線枠部分)は、R4地方創生推進交付金を活用

サービス概要（1/5）

■ サービス内容

サービス名	AIによるSNS等からの災害情報等のリアルタイム収集・分析	事業費	5,782千円
ターゲット	全ての浜松市民及び浜松市内に通勤・通学する方 等（避難情報の発令や被災者支援の対象）		
展開エリア	静岡県浜松市		

サービス内容（事業分野：⑨防災・防犯）

- ◎本市は、約1558km²（全国の基礎自治体の中で2位）という広大な市域を有し、海、山、川、湖といった豊富な自然環境と都市部が共存するまちだが、それゆえ、南海トラフ地震とそれに伴う津波や、昨今の気象災害激甚化など、自然災害のリスクと隣合わせの地域でもある。
- ◎2022年9月の台風の際には、市内各地での浸水被害や、山間部での土砂災害が発生した。
- ◎Twitter等のSNSや、情報投稿アプリの投稿情報からAIによって精査された災害・事故・事件等の現場情報を迅速に収集・分析できるサービスを導入し、避難情報の発令や被災者支援等災害対応に活用する。



サービス概要（2/5）

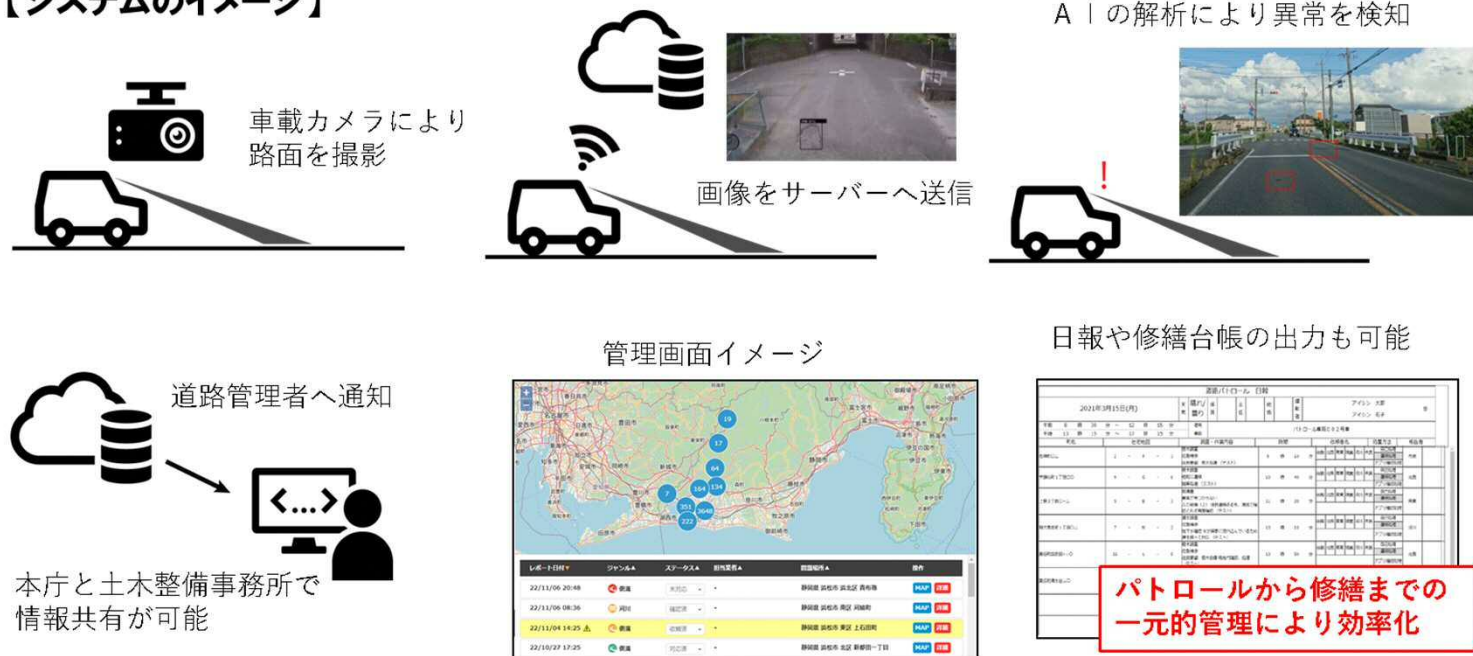
■ サービス内容

サービス名	AIによる道路損傷の迅速・効率的な検出	事業費	11,431千円
ターゲット	浜松市内の道路を走行する車両のドライバー等（安全・安心で走行しやすい道路環境保全により裨益）		
展開エリア	静岡県浜松市		

サービス内容（事業分野：⑦インフラメンテナンス）

- ◎本市は、約8500kmと長大な道路管理延長を有しており、全域の損傷を把握するのが困難である。
- ◎AIで車載カメラの映像から損傷を自動で検出するシステムを導入し、広域な情報の効率的な収集と迅速な道路異常の発見を行い、速やかな修繕に繋げることで、通行車両に損害を与える事故の発生件数を減らす。

【システムのイメージ】



サービス概要（3/5）

■ サービス内容

サービス名	施設損傷・不法投棄等LINEスマホ通報システムの運用	事業費	4,658千円
ターゲット	全ての浜松市民及び浜松市内に通勤・通学する方		
展開エリア	静岡県浜松市		

サービス内容（事業分野：⑦インフラメンテナンス、⑫その他）

◎本市は、長大な道路延長や多くの公園等の施設を有し、その全ての点検には多大な時間と労力を要する。

◎路上死亡動物回収依頼、不法投棄通報及び公園施設の損傷等の通報は、主に電話で受け付けており、場所や損傷状況等の把握に時間を要している。

◎浜松市公式LINEアカウントを入り口とし、LINEチャットボットを活用して道路、公園施設の損傷状況や不法投棄の通報、路上死亡動物回収依頼を受け付けることで、通報数の増加や迅速な対応につなげ、市民の生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図る。

◎さらに、路上死亡動物回収受託事業者にタブレットを配備し、上記システムからの回収依頼を直接受け付け、回収結果の送信をリアルタイムで行えるようにすることで、回収依頼への対応スピードをより一層高める。



サービス概要（4/5）

■ サービス内容

サービス名	浜松版MaaS（共助型交通）の導入	事業費	8,000千円
ターゲット	市内の公共交通機関の空白地にお住まいで、移動手段の確保が難しい方		
展開エリア	静岡県浜松市西区の一部エリアからスタートし、必要な地域への拡大を図る		

サービス内容（事業分野：⑥交通・物流）

- ◎2021年に策定した、浜松版MaaS構想の「持続可能な地域を支えるモビリティサービス」に位置付ける「自家用車を使った乗り合いの促進」や「異なる交通手段の連携や一体的運用・運営」をデジタル技術を活用して具現化し、公共交通機関の空白地における、持続可能な地域交通の確立を目指す。
- ◎登録した住民ドライバーが、自分の用事で出かけるついでに地域の利用者を乗せて行き、運行後に利用者がドライバーに対し、少額の謝礼を支払う有償旅客運送方式を採用する。
- ◎利用者は、ドライバーが事前に示す外出予定（日時、行先）を確認し一緒に乗せて行って欲しい予定があれば、専用アプリまたは電話で同乗予約を行う。
- ◎予約が入ったら、ドライバー側にアプリから自動で通知。

マッチングシステム



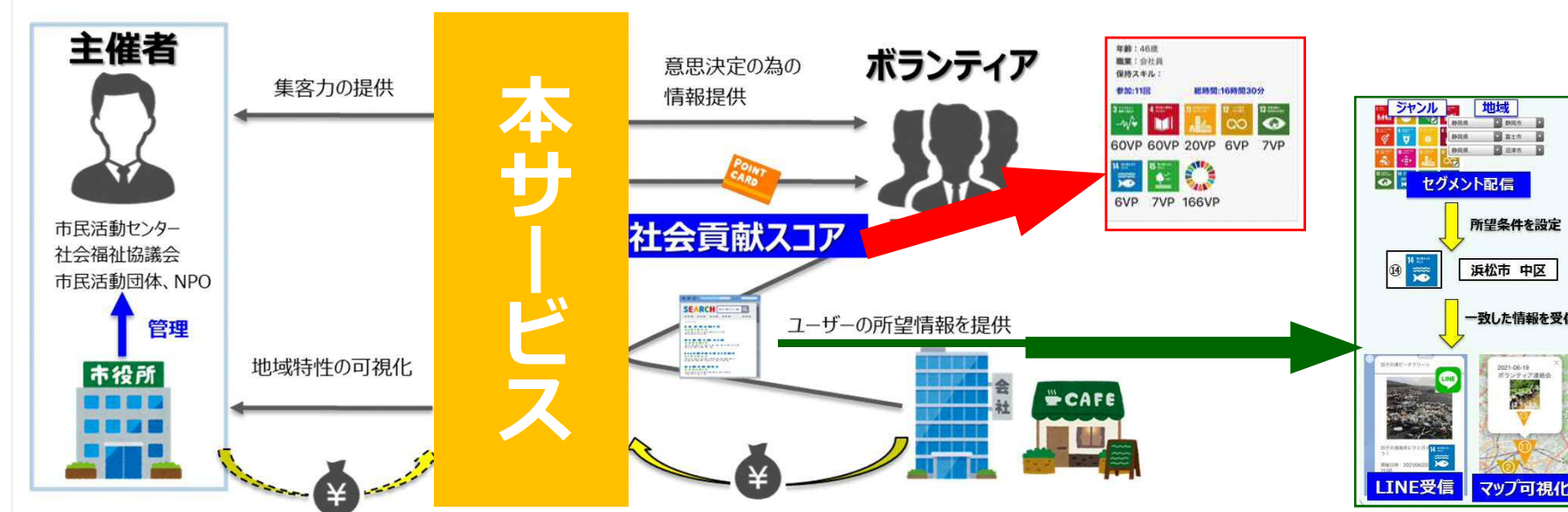
サービス概要（5/5）

■ サービス内容

サービス名	LINEを活用した地域ボランティア活性化サービスの導入	事業費	2,000千円
ターゲット	浜松市内のボランティアをしたい人及びボランティアを募集する団体等		
展開エリア	静岡県浜松市		

サービス内容（事業分野：⑫その他）

- ◎浜松市データ連携基盤活用サービス実装支援補助金により、民間事業者のサービスの地域実装を図る。
- ◎ボランティアに参加したい人とボランティアを募集する団体のマッチングサービスを活用し、地域内の助け合いを活性化させる。
- ◎本サービスのユーザーは、希望するボランティア情報について地域とジャンルを指定してLINEで受信し、参加申込ができる。また、ユーザーのボランティア参加実績について、ジャンル別の社会貢献スコアとして集計し、可視化できる点も大きな特長である。



④デジタル田園都市国家構想交付金 デジタル実装タイプ[°]（TYPE X）

（令和4年度第2次補正予算事業）

事業概要【マイナンバーカードを活用した電子図書館システム等の構築】

実施地域	静岡県浜松市	事業費	119,452千円
実施主体	静岡県浜松市	人口	795,771人
事業概要	マイナンバーカードを取得した方に対し、 マイナンバーカード自体を図書館利用者証として活用 できるようにするのに加え、マイナンバーカードと連動し、リアルとオンラインの図書館サービスの利便性を飛躍的に高めることができる 図書館スマホアプリを全国に先駆けて実装・展開 していくことで、図書館サービスの利便性向上と利用者の裾野の拡大による地域幸福度（Well-Being）の向上と、マイナンバーカードの更なる普及の相乗効果を目指す。		

取組内容

①マイナンバーカードの図書館利用者証としての活用

マイナンバーカードを貸出窓口などで図書館利用者証の代わりに使えるようにし、マイナンバーカードの市民カード化を進める。

②マイナンバーカードと連動した図書館アプリの全国に先駆けた実装

次に掲げる機能を持ったスマホアプリを実装する。

◎マイナンバーカードをかざすことによるオンライン図書館利用者登録機能

★氏名、住所、生年月日、性別が自動で入力される！

★休館時を含めいつでも、即時かつ自動で登録完了！

★オンライン利用者登録と電子図書館サービスとの連動（シングルサインオン）により、一度も図書館に足を運ぶことなく、電子図書を借りられるようになる「**行かなくてもよい図書館**」を実現！

◎スマホを図書館利用者証として使える機能

◎オンライン蔵書検索、資料貸出予約機能

◎返却期限の到来などの情報をプッシュ通知機能

※合わせて、本市データ連携基盤を活用した図書館の混雑状況の可視化を行い、図書館アプリとの連動を図る。

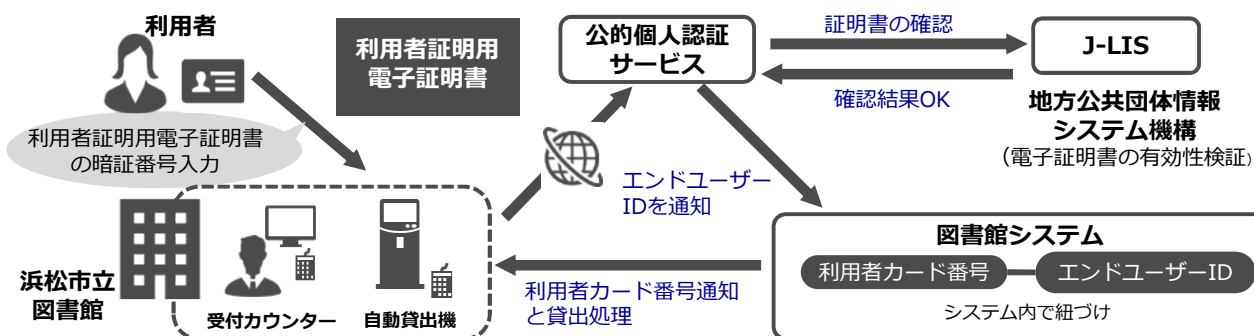


サービス概要（1/1）

サービス名	マイナンバーカードを活用した電子図書館システム等の構築	事業費	119,452千円
ターゲット	全浜松市民（特に、浜松市立図書館の利用者登録を新規に行う方）		
展開エリア	静岡県浜松市		

サービス内容（事業分野：②住民サービス）

1 図書館利用者証の代わりにマイナンバーカードで貸出

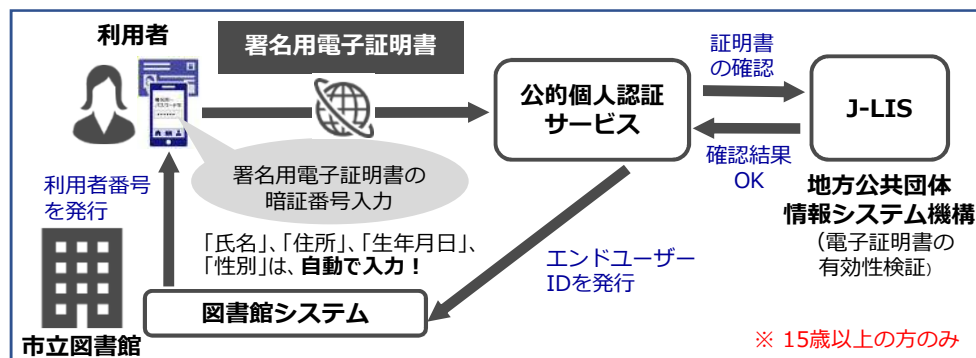


JPKI方式により実施

- 公的個人認証サービス発行のエンドユーザーIDと利用者カード番号を図書館システム内で紐づけ（マイナンバーカードに情報を書き込むものではない）
- 暗証番号のロック解除や電子証明書の更新は区役所等の窓口で行う

2 マイナンバーカードと連動したスマホ用図書館アプリ

◎ オンラインで「いつでも」「かんたん」「すぐ使える」利用者登録



※ 15歳以上の方のみ

◎ スマホが利用者証に！



ワンタップで
利用者証として使える
バーコードを表示！

◎ 様々なプッシュ通知が届く



◎ オンライン蔵書検索・予約



リアルな資料だけでなく、電子図書も同時に検索し借りられる。これにより、利用登録から電子図書閲覧までをオンラインで完結。
「行かなくてもよい図書館」を実現！

(4) 令和5年度の主な事業予定

項目		2023年度													
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
Ⅰ デジタル・スマートシティ	官民連携PF運営委員会 会員との連携		●第1回運営委員会			●第2回運営委員会			●第3回運営委員会			第4回運営委員会●			
		学校への会員派遣制度													
	官民連携PF ピッチ・ウェビナー					●ソリューションピッチ									
				●ウェビナーⅠ			●ウェビナーⅡ			●ウェビナーⅢ		●ウェビナーⅣ			
	データ連携基盤 運用機能追加	浜松市データ連携基盤の運用・機能追加													
	データ連携基盤の 活用促進			参加募集	庁内課題等に対するデータ連携基盤を活用したソリューションの募集・審査・採択案件の検証支援									▲成果発表会	
		事業公募	審査	補助事業の実施期間											
	MONTH事業			冠事業募集	選定	周知	●オンラインフォーラム	マンズ							
	地域共助型 デジタル技術 活用支援事業			中山間地域（2地区）での相談人材の育成											
		水産地域での相談体制の構築・相談マニュアル作成													
				事業所の募集	事業所の研修	事業所での相談開始									
	庁内連携		★第1回本部会議 ★第1回WG				★第2回本部会議 ★第2回WG			★第3回WG		★第3回本部会議 ★第4回WG			
Ⅱ MaaS	モビリティサービス 推進コンソーシアム		●第1回会議 ●第1回モビリティ分野Well-Beingワークショップ			●第2回会議 ●第2回モビリティ分野Well-Beingワークショップ		●セミナー		●第3回会議	●データ利活用ワークショップ	●第4回会議			
	共助型地域交通等推 進モデル事業	モデル地区：庄内地区 事業主体への支援（住民説明会、ドライバー募集等）													

令和5年度の取組予定

38

Digital Smart City
HAMAMATSU

項目		2023年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
Ⅲ デジタル・ガバメント	行政手続オンライン化、キャッシュレス決済推進	オンライン化の推進、オンライン利用率向上											
		キャッシュレス決済の運用											
	協働センター等Wi-Fi運用	Wi-Fi運用											
	ビジネスチャットツール導入	運用・外部コラボの推進											
	デジタル・ガバメント人材育成	DX研修											
	デジタルを活用した業務改革	重点取組業務の選定・改革											
		各所属における業務改革（重点取組業務以外の業務）											
	書かないワンストップ窓口	届出業務システム準備			★届出業務スタート 届出業務運用								
	Web会議システム整備・運用	運用											
AI等先進技術活用	RPAの活用												
	LTEモデルChromebookを活用したテレワークの実証実験												
Ⅳ デジタル・マーケティング	相談支援	デジタル・マーケティング相談支援 ★次年度予算要求に向けた相談会											
	人材育成				★ワークショップ ★セミナー①			★セミナー②			★ワークショップ ★セミナー③		

条例・各種計画

- ・浜松市デジタルを活用したまちづくり推進条例
- ・浜松市デジタル・スマートシティ構想
- ・浜松市版MaaS構想
- ・浜松市デジタル・マーケティング戦略
- ・浜松市DX推進計画

3 意見交換

3 意見交換

(1) プラットフォームのこれまでの活動の振り返りと今後に向けて

プラットフォームのこれまでの活動の振り返りと今後に向けて

【成果】

- ・推進の基盤となる条例、構想、DX推進計画を制定・策定
- ・PF 会員の拡大 199 団体(R4.3.3 時点)多様な主体が参画(IT、金融、建築、学校等)
- ・運営委員会やウェビナー等により各分野の取組の現状と課題を共有
- ・データ連携基盤の活用における実証から実装への仕組みづくり

【課題】

- ・PF と各分野の推進母体の更なる連携
- ・各分野におけるデータ利活用の一層の推進
- ・条例や構想等が整備された中で、各取組の実装に向けた強化
- ・地域課題解決や地域の活性化等にどのようなインパクトを与えているかの評価
(Well-Being 指標の活用 等)

3 意見交換

(2) 官民でのWell-Being指標の活用について

国（デジタル田園都市国家構想）

Well-Beingに係る指標の整備、活用の推進



Well-Beingの視点で
暮らしやすさと幸福感を実感できるように
地域幸福度（Well-Being）指標を
活用していく



市（デジタル・スマートシティ構想）

人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ禍の状況においてデジタルの力を最大限に活用。「**市民QoLの向上**」と「**都市の最適化**」を目指しデジタルで“繋がる未来”を官民で共創



デジタル庁
デジタル社会の実現に向けた重点計画（概要）より



以下4分野において、指標を先行活用

選考の観点

- ◎市民の幸福度向上への寄与度
- ◎デジタル・スマートシティの取組方針との親和性

ウェルネス分野

市民がいつまでも健康で幸せに暮らせる「予防・健幸都市」の実現を目指し、官民で取組を推進。



カーボンニュートラル／エネルギー分野

再生可能エネルギー導入容量日本一の特徴を活かし、産学官金によるプラットフォームを形成し、様々なスマートプロジェクトを推進。



交通／モビリティ分野

広大な市域や自動車産業が盛んな都市の特徴を活かした取組を推進。



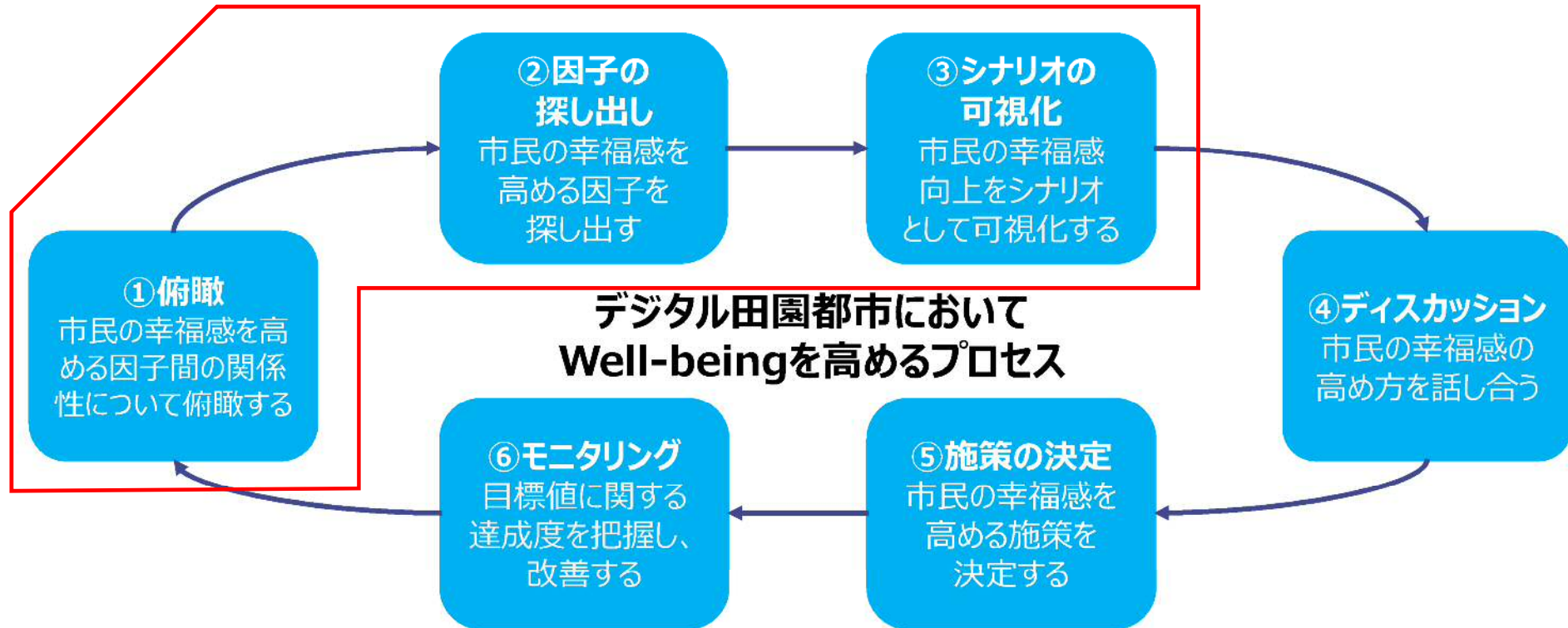
スタートアップ分野

スタートアップと地域のものづくり企業との融合による新産業の創出を目指す。



Well-Beingを高めるプロセス

令和4年度に①～③までを実施（交付金活用）



LWC指標利活用ガイドブックより
（出典：SCI-J）

- プロセス①：R4.11 Web市民アンケートを実施（指標測定）、1,805サンプル回収・分析
 プロセス②：R5.1 アンケート分析結果を庁内共有。浜松市民の幸福感と相関の高い因子を確認
 プロセス③：R5.1～3 各分野においてシナリオ作成・公開
 プロセス④以降：
 官民連携組織等において活用し、官民で市民の幸福感を高めていく。
 交通／モビリティ分野においては、R4.4月下旬にモビリティコンソーシアムにてワークショップを開催。

- ◆ 「令和4年度浜松市LWC指標活用支援業務」(デジ田交付金を活用) 委託業務
内容の一つとして実施
- ◆ 短期間で必要な有効回答数を得ること及び回答品質管理のため、民間アンケート
事業者の協力を得た

調査地域 浜松市全域

調査期間 令和4年11月25日～11月28日

調査方法 Web

調査対象 令和4年11月25日現在で市内に居住する18歳以上の男女
(17,645人)

回答状況 1,805件 (回答率10.2%)

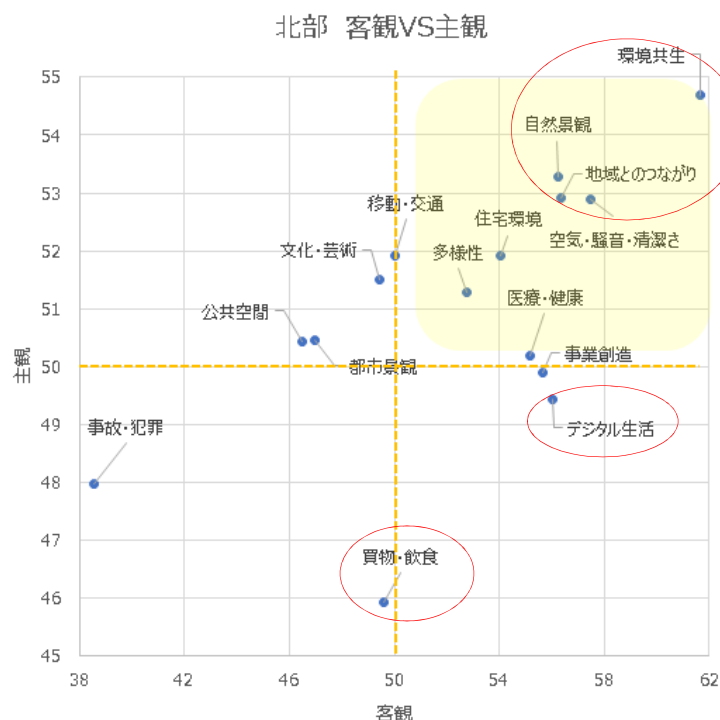
全設問数 150問

(SCI-J公開のLWC指標主観アンケートと共通：123、市独自：27)

Well-Being指標の活用

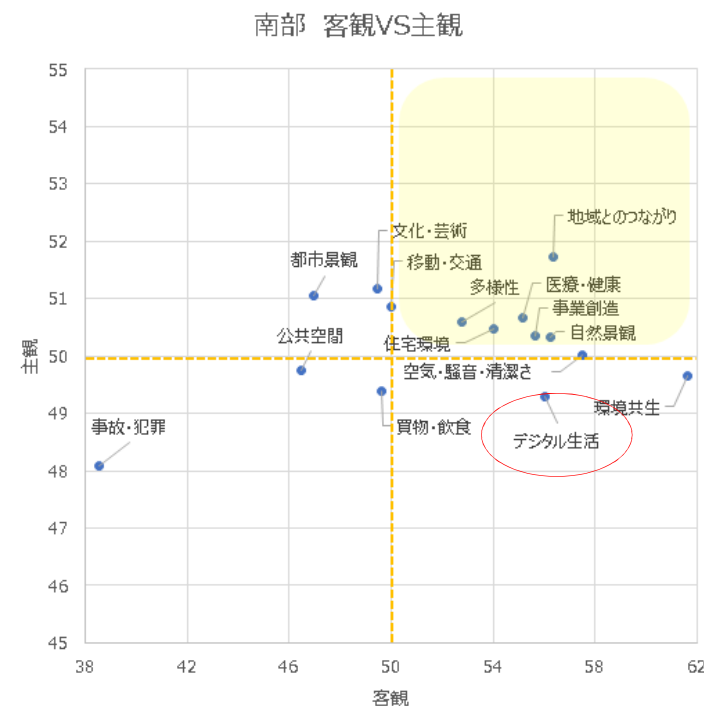
47

北部（天竜・北区）と南部（中・東・西・南・浜北区）の幸福感（偏差値）について、客観をX軸、主観をY軸として置いた図



北部

- ・豊かな自然環境が客観的／主観的に幸福感に結びついている
- ・デジタル生活：客観は高いものの主観は低く、市民の実感に至っていない
- ・買物・飲食：客観、主観指標とも低い



南部

- ・主観・客観とも平均以上のカテゴリーが多いが、市北部と比べると全体的に低め（特に自然環境）
- ・デジタル生活：市北部同様の傾向

北部の豊かな自然環境が幸福感に好影響をもたらしていることが考えられる。南部の住民においても、都市部と自然環境が近接している本市の特徴を生かし、北部の自然環境の好影響が感じられるような取組は事業効果が大きいと推察。

官民連携によるまちづくりを推進するため、
行政だけでなく、民間企業や各種団体においても活用を促進

【官民連携組織でのシナリオ活用例：交通・モビリティ分野】

モビリティ分野のシナリオ



浜松市モビリティサービス
推進コンソーシアム

- シナリオをもとに、官民連携組織で意見交換を行う
例) 調査結果や市民像・シナリオ等について、より多様な視点で
意見交換を行う
- シナリオに沿って民間や官民連携で実現できそうな取組を考える
例) サービスレイヤーにおけるWell-being向上に資する取組を
ワークショップ等により検討し、実施していく
- 会員やコンソーシアムの取組が、想定した市民像のWell-Being
向上に繋がっているか取組の効果測定、KPIの定点観測により検証

3 意見交換

(3) 各分野のDXの更なる推進に向けて